

第 14 回運営推進会議議事録

日時：令和 8 年 5 月 22 日

参加者：石川泉・石川正義・梶本恵子（リハビリスタジオオアシス）、古橋薫 CM（地域包括支援センターモーニングパーク）、土佐隆子様（民生委員）、橋本雅洋様（朝霞本町商店会）、XXXXXXXXXX様（利用者代表）、篠原逸子様（NPO 子供サポートげんき）

※朝霞市健康部介護保険課は欠席

意見交換の概要

① オアシスで事故発生

- ・利用者が一時行方不明になる事故が発生（大事には至らず）。これを教訓に、基本事項を定期的に確認し合う仕組みが必要との認識で一致
- ・「プロだからわかっているはず」という思い込みを排除し、節目（例：毎年 5/15 の送迎研修）で心構えを再確認する

② 他事業所の例）送迎時の安全管理と連絡体制

- ・古橋氏よりデイケアの送迎体制を紹介（利用者約 30 名、デイベス 4 台・小型車 2 台）
- ・朝は到着 5～10 分前に電話連絡、帰りは家族の在宅状況に応じて連絡タイミングを調整
- ・ヘルパー訪問時は運転中の電話対応が難しく、できるだけ同時刻訪問・遅延時はこまめに連絡。待たせることが利用者のストレスにならないよう配慮するが、人員面の制約もある

③ 他事業所の例）ヒヤリハット事例の共有方法

- ・古橋氏のデイケアでは、送迎中（特に乗車時）のヒヤリハットが多く、朝礼での毎回共有と週 1 回のミーティングで重要案件を共有
- ・原因と解決策を記載した書類を目につく場所に掲示。全利用者の連絡タイミング等をまとめたエクセルを全車両に配置し、改訂時は一斉更新

④ 情報共有ツールの活用と対面確認の重要性

- ・オアシスでは出勤時間が異なり全員での朝礼が難しいため、LINE WORKS を活用。情報共有で便利な一方、情報が埋没しやすく流れてしまう課題がある

- ・ デジタルツールだけでなく、対面での話し合いを併用し、顔を合わせる機会を増やす方向で検討

⑤ 利用者の状況と男女比

- ・ 平均年齢は約 85 歳が中心で 90 代も増加傾向。女性が 84%と大多数を占める
- ・ 男性は申し込み自体が少ない一方、見学した男性はほぼ入会。運動プログラムは男性にも好評
- ・ 利用者同士の助け合いや施設外での交流（カラオケ等）が見られる。カスハラはほぼなし、セクハラ（お触り）や認知症による恋愛感情絡みの事例も共有された

⑥ 事業拡大計画と行政との連携

- ・ 3 年以内に同業態、5 年後に別業態の事業所拡大を目指す方針。事業化には市の福祉計画への位置づけ確認が前提となるため、行政への積極的な働きかけ・対話が重要との指摘
- ・ 朝霞市への恩返しを重視し、志木市にニーズがあっても朝霞市を軸足に地域貢献を優先する方針
- ・ 介護保険制度創設時からの社会情勢の変化を踏まえ、申し込みが少ない理由の分析や次世代の意識変化への対応も今後の課題

⑦ 人材確保の取り組み

- ・ 人材マッチングサービス「カイテク」を活用した採用効率化の取り組みは、他事業所やリハプライドでも評価され、業界内で認知が拡大
- ・ 人材紹介会社は手数料が高額で、1 日で辞めても返金なし。保育士採用でも同様の中間マージン構造の課題があり、ハローワーク等も併用中

⑧ その他

- ・ 利用者の声：■■■■様より、助け合いの雰囲気やしんどい朝でも通うと元気になる楽しさを紹介。女性は 2 回、男性は 4 回以上通うと打ち解けやすい傾向